

ろうどうくみあい はい たたか
労働組合に入って闘おう

ごう う ひ がい しん じ ゆうしゆぎ じんさい
豪雨被害は新自由主義の人災だ

こくてつしゆうかい いか ほんげきかい し
7・26 国鉄集会以怒りの反撃開始を

きゆうしゆう おそ ごう う えいきよう くまもとけん なが く ま がわ ほんらん よう か
九州を襲った豪雨の影響で熊本県を流れる球磨川が氾濫(ほんらん)し、8日
までに特別養護施設の高齢者 14 人をはじめ 54 人の命が奪われた。氾濫が起こっ
たのは以前から危険性が高いと指摘されてきた箇所だ。地元住民はダムによら
ない治水策を求めてきたが、10 年以上も放置されたままだった。一昨年の西日
本豪雨や今年の台風でも多くの命が奪われている。ミサイルや戦闘機には巨額
の税金が投入される一方で、この 20 年の間に国の治水予算は半減させられた。
民営化による人員削減や非正規職化は、地方自治体から災害に対応する力を奪
ってきた。民営化・非正規職化と対決する労働運動が今ほど求められている時
はない。闘う労働組合の再生を目指す 7・26 国鉄闘争全国運動集会に集まろう。

ろうどうしや こんていてきはんらんかくだい
労働者の根底的反乱拡大

しんがた かんせんしやすう ぜん せ かい まんにん こ ししやすう まん
新型コロナウイルスの感染者数は全世界で 1 2 0 0 万人を超え、死者数は 54 万
8 千人を突破した(7月9日時点)。中でもアメリカが感染者数、死者数とも
に世界最悪となっている。

きぎようか ふごう うれ しほんしゆぎ だい あさひ しんぶん
アメリカのある起業家は「富豪が憂える資本主義」と題した朝日新聞のイン
タビューに答えて、「米国には、コロナとは別の『ウイルス』がはびこっていま
した。約 40 年かけて深まった新自由主義です」「格差という病巣が広がり、社会
のあらゆる側面がウイルス危機に無防備になっていました」と語る(6月5日付)。

まんにんちよう かんせんしやう ししやすう せんそう せんししやすう
 12 万人超 というアメリカのコロナ感染症 死者数は、ベトナム戦争の戦死者数の
 ばい い じよう
 2 倍以上だ。

しん じ ゆうしゆぎ ろうどうしや せいかつ い じ ふ かけつ いりよう ふくし
 新自由主義は、労働者が生活を維持していくために不可欠な医療や福祉など
 こうてき じぎよう たい ひ こうりつ あかじ は みるえい か ていこう
 の公的事業に対し、「非効率だ」「赤字だ」とレッテルを貼って民営化し、抵抗
 ろうどうくみあい かいたい ぼうりよくてき お すす さくげん
 する労働組合を解体することによって暴力的に押し進められてきた。コスト削減
 な ろうどうしや ちんぎん き さ せいきしよく ひせいしよく お か
 の名のもとで労働者の賃金が切り下げられ、正規職が非正規職に置き換えられ、
 けつ か びようき かね いりようきかん ろうどうしや ぼうだい
 その結果、病気になってもお金がなくて医療機関にかかれない労働者が膨大に
 う だ げつ まんにん こ しつぎようしや
 生み出された。アメリカでは、わずか2カ月ほどで4200万人を超える失業者
 う だ しん じ ゆうしゆぎ かくき ひろ こよう はい
 が生み出されるほどまでに新自由主義は格差を広げ、雇用を破壊していった。ま
 ろうどうしやかいきゆう たい せんそう しやかい ほうかい
 さに労働者階級に対する「戦争」として社会を崩壊させてきたのだ。

かんせんかくだい しん じ ゆうしゆぎ う だ しやかいほうかい げんじつ
 だが、コロナウイルスの感染拡大は、新自由主義が生み出した社会崩壊の現実
 あば ろうどうしや せいじ いしき きゆうそく たか
 を暴いただけではない。コロナをきっかけに労働者の政治意識が急速に高まり、
 せ かいじゆう ろうどうくみあい はじ しゆう こくじん
 世界中で労働組合がよみがえり始めている。ミネソタ州ミネアポリスでの黒人
 だんせいぎやくさつ こうぎ はげ ねんあま あいだ ふ あ
 男性虐殺に抗議する激しいデモやストライキは、この40年余りの間に吹き荒
 しん じ ゆうしゆぎ たい ろうどうしや こんていてき ほんらん
 れた新自由主義に対する労働者の根底的な反乱だ。

に ほん たたか れんたい じんしゆきべつ こうぎ ぜんこくかくち と
 日本でもアメリカの闘いに連帯し、人種差別に抗議するデモが全国各地で取
 く はじ さん か わかもの おお あら ろうどうくみあい けつせい
 り組まれた。初めてデモに参加する若者も多く、新たな労働組合の結成やユニオ
 か にゆう ふ
 ンへの加入も増えている。

とりつびよういんどくほう か ゆる
 都立病院独法化を許すな

に ほん かんれん かい こ やと ど まんにん こ はつびよう
 日本では、コロナに関連した解雇・雇止めが3万人を超えたと発表された
 ひようざん いつかく こようほけん こようちようせいじよせいきん う と
 が、これは氷山の一角にすぎない。雇用保険も雇用調整助成金も受け取ること

ができない労働者が膨大に存在している。J R 北海道など各社が一時帰休を開始し、日本航空やトヨタ自動車などもメガバンクからの巨額の資金調達でなんとかしのいでいる状況だ。7月3日付日経新聞は「雇用危機 迫る第2波」として「各国の雇用支援制度が今夏から期限切れが相次ぎ、多くの失業者を生み出しかねない」と報じる。

こうした中で、経団連は「終身雇用、年功序列、一括採用という社会の仕組みそのものの根底が変わってきている」「デジタル技術でテレワークや遠隔教育、遠隔診療、新しいビジネスの創出を後押しする」(中西宏明会長)と主張し、コロナ危機に乗じて大合理化を一気に推し進めようと狙っている。

今や労働運動、階級闘争の条件がこれまでとは全く変わろうとしている。この間、医療・介護、運輸・鉄道、清掃、郵便、保育などで働く労働者を「エッセンシャルワーカー(=必須労働者)」などと呼び、十分な感染防護策もなのまま出勤・就業させることが横行している。院内感染による患者の死亡が多発した東京・永寿総合病院の労働者の手記が公表されているが、そこには「仲間を戦地に送り出しているような気持ち」だったと、死を覚悟して働く医師や看護師たちの生々しい声が記されている。同様に全国各地で働く医療・福祉関連の労働者は、マスクや防護服など最低限の資材も十分に届かない中で最前線に立たされてきたのだ。

だが、そもそも医療労働者をはじめ社会にとって「必須」とまで言われる労働者が、新自由主義のもとでどれほど低賃金・無権利・不安定雇用に追い込まれ、その存在を軽んじられてきたか。今こそそれが根本的に問い直されなくてはならない。

にもかかわらず、現実には起きているのは、感染対策のコスト増や利用者の減

しょう り ゆう いりようろうどうしや いち じ きん とうきようじよし い だいびよういん なつ いち
 少を理由とした医療労働者への一時金カットだ。東京女子医大病院は夏の一
 じ きん ていあん しよくいん わり あ にん たいしよく き
 時金をゼロにすると提案したことで、職員の2割に当たる400人が退職を希
 ぼう あ べ せいけん ぜんこく こうりつ こうてきびよういん さいへん とうごう
 望しているという。また安倍政権は全国440の公立・公的病院を再編・統合
 し、20万床を削減するために644億円の予算を計上した。さらに、先日の東
 きよう と ち じ せんきよ さいせん こいけ ゆり こ とうせんちよくご きつ きん か だい
 京都市選挙で再選した小池百合子は、当選直後のインタビューで「喫緊の課題
 しんがた たいさく だいに は そな い み たいおう い
 は新型コロナ対策。第2波に備える意味でもしっかり対応していきたい」などと言
 いながら、コロナ感染症対策で最前線に立った都立・公社14病院の地方独立
 ぎようせいほうじん か みんえい か まぎやく せいさく お すす ぜつたい ゆる
 行政法人化（民営化）という真逆の政策を推し進めようとしている。絶対に許
 せない。

かいけんねら あ べ
 改憲狙う安倍にとどめを

あ べ せいけん こん か あき てきき ち こうげきのうりよく ほゆう む ぎろん すす
 安倍政権は、今夏から秋にかけて「敵基地攻撃能力」の保有に向けた議論を進
 りん じ こつかい かいけんろんぎ すいしん ねんまつ こつ か あんぜん ほしやうせんりやく かいてい ねら
 め、臨時国会での改憲論議の推進と年末の国家安全保障戦略（NSS）改定を狙
 っている。こうがくへい き たいりようこうにゆう ゆう ちやうえん こ への こしん き ちけんせつ
 高額兵器の大量購入、優に1兆円を超える辺野古新基地建設のため
 じ ばんかいりようこうじ か いのち せいかつ きき お こ あつとうてきたすう
 めの地盤改良工事など、コロナ禍で命と生活の危機に追い込まれる圧倒的多数
 ひとびと しりめ せんそうじゆんび きやがく こつ か よきん とうにゆう
 の人々を尻目に、戦争準備のために巨額の国家予算を投入しようとしているの
 だ。

らうどうしや はんげき けいき しよくば きき あき
 だが、労働者の反撃の契機はあらゆる職場にある。コロナ危機が明らかにし
 いりよう かいご てつどう ゆうびん がつこう ほいく せいそう しごと みんえい か
 たことは、医療や介護、鉄道や郵便、学校や保育、清掃などの仕事を民営化し
 かね しゆだん ぜつたい ゆる おお
 て金もうけの手段にすることなど、絶対に許してはならないということだ。多く
 ろうどうしや みずか ろうどう しやかい じゆうよう じぶん じしん
 の労働者が、自らの労働がどれほど社会に重要であり、また自分自身がどれだ
 じゆうよう そんざい りやうほう せいふ しほん かる
 け重要な存在であるか、そしてその両方が政府や資本によってどれほど軽んじ

られてきたかを自覚し始めている。様々な職場でコロナ危機と闘った経験は、
 必ず新自由主義という「もうひとつのウイルス」への怒りと闘いに発展してい
 く。

これまで一斉退職という形で怒りを表していた看護師や保育士や非正規職
 労働者が、もう泣き寝入りしないと職場に労働組合をつくり、ユニオンに加盟
 し、ストライキに立ち上がり始めている。コロナ感染症との闘いは、医療を
 はじめすべての労働者が歴史の最前線に登場する可能性をつくり出した。その中
 から労働組合がよみがえり始めている。

新自由主義下で奪われてきたすべてを奪い返そう。闘いはこれからだ。7・26
 国鉄闘争全国運動集会に集まろう。